ソ連共産党中央委員会の
書簡（1964年6月15日付）にたいする

中国共産党中央委員会の返書

1964.7.28

外文出版社
北京

ソ連共産党中央委員会の
書簡（1964年6月15日付）にたいする

中国共産党中央委員会の返書

外文出版社
北京

目次

ソ連共産党中央委員会の書簡（一九六四年六月十五日付）にたいする
中国共産党中央委員会の返書（一九六四年七月二十八日）……五

付

中国共産党中央委員会にあてた
ソ連共産党中央委員会の書簡（一九六四年六月十五日付）……三五

ソ連共産党中央委員会の書簡（一九六四年六月十五日付）にたいする中国共産党中央委員会の返書

ソ連共産党中央委員会
親愛なる同志のみなさん
中国共産党中央委員会は、ソ連共産党中央委員会の一九六四年六月十五日付の書簡をうけとりました。この書簡は六月二十日にはじめてわたしたちにわたされました。これより先、この書簡の内容はすでに西側のブルジョア新聞・雑誌に漏らされております。
あなたがたの書簡は、わたしたちが五月七日付の書簡のなかでのべた合理的な提案を歪曲し、拒絶しており、団結をもとめ、分裂に反対する多くの兄弟党の意見に対してそ知らぬ顔をしています。あなたがたは書簡のなかで、兄弟党の国際会議のために修正主義の政治綱領と分裂主義の組織路線を規定しました。このことは、あなたがたが横暴にも、一方的な、不法なやり方で国際共産主

義運動を公然と分裂させる会議を準備し開催しようとすでに決意したことを暴露しています。

一

兄弟党の国際会議を開催する問題で、中国共産党は一貫してマルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義を堅持し、充分な準備活動をすすめ、話し合いを通じて一致した協定に達し、マルクス・レーニン主義の基礎のうえに立つ団結の大会を開くよう主張し、分裂会議の開催には断固反対してきました。わたしたちは過去も現在も終始一貫この立場を堅持してきました。あなたがたは書簡のなかで、わたしたちが「百八十度の転換をした」といっていますが、これはまったくウソをもって事実にかえるものです。

事実はどうでしょうか。

はやくも一九六二年の春、ソ連共産党第二十二回大会後間もなく、中国共産党はインドネシア共産党、ベトナム労働党、ニュージーランド共産党の提案を積極的に支持し、兄弟党の国際会議を開いて、あなたがたによって敵の前に公然と暴露された意見の相違をとりのぞくよう主張しました。中国共産党中央委員会は一九六二年四月七日あなたがたにあてた書簡のなかで、「心から兄弟党会議開催の主張を支持する」と表明し、そして、会議が成果をおさめるかどうかは「事前に多くの困難と障害を克服するかどうかにかかっており、多くの準備活動をおこなうかどうかにかかっている」と指摘しました。あなたがたはこの二つのことばを忘れてしまったのでしょうか。それともこのことばの意味がわからなかったのでしょうか。もし忘れたのであれば、あなたがたの記憶力がいかにわるいかを物語っており、もし意味がわからなかったとすれば、あなたがたの理解力がまことに乏しいことをしめしていることになります。わたしたちは、会議が成果をおさめるかどうかは「事前に多くの困難と障害を克服するかどうかにかかっており、多くの準備活動をおこなうかどうかにかかっている」とはっきり書いておいたではありませんか。

わたしたちがこうした立場をとったのは、意見の相違をとりのぞき、団結をつよめ、共同して敵にあたるためであります。ところが、あなたがたは、一九六二年五月三十一日付の書簡で、兄弟党の国際会議開催に関する提案を拒絶したのです。ひきつづいてあなたがたは中ソ両党、両国の関係をいっそう悪化させる一連の措置をとり、そのうえ、一九六二年の冬に前後して開かれたヨーロッパの五つの兄弟党の大会で、中国共産党とその他のマルクス・レーニン主義兄弟党に反対するあらたな逆流を巻きおこしました。

こういった事情であったにもかかわらず、中国共産党中央委員会は一九六三年七月やはり代表団をモスクワに派遣して、中ソ両党会談をおこなったのです。わたしたちはもともとこの会談が

積極的な成果をおさめ、兄弟党国際会議開催の準備に有利になるようにのぞんでいました。しかし、あなたがたは中ソ両党会談に対していささかの誠意ももたず、しかも会談のおこなわれている期間中に、ソ連共産党中央委員会が各級党組織と全党員にあてた公開書簡を発表し、国際共産主義運動の意見の相違を拡大し、深めて、国際会議開催の道をさらにふさいでしまったのです。

一九六四年の春、あなたがたが設けたいくえもの障害を克服して、マルクス・レーニン主義の基礎のうえに団結の大会の開催をかちとるため、わたしたちはふたたび大きな努力を払いました。あなたがたが一九六三年十一月二十九日にわたしたちにあてた書簡では、いたずらに団結の空念仏をとなえるだけで、国際会議開催についてはなんら具体的な措置を提出しなかったため、わたしたちは一九六四年二月二十九日にあなたがたにあてた書簡で、兄弟党国際会議の準備と開催に関する四項目の提案を提出しました。この四項目の提案は次の通りです。「一、公然たる論戦を停止するには、かならず中ソ両党とその他の関係ある兄弟党が各種の両党間またはいくつかの党の間の会談をおこない、話し合いを通じて、各方面がうけいれることのできる公平で合理的な方法を見つけだし、共同の協定を結ばなければなりません。二、中国共産党は世界各国共産党・労働者党代表者会議の開催を一貫して主張し、また積極的に支持してきました。この会議を開くまえに、充分な準備活動をおこない、困難と障害を克服しなければなりません。わたしたちは、この会議がマルクス・レーニン主義の革命的原則の基礎のうえに団結する大会となるよう、他の兄弟党とともにあらゆる努力をつくしたいと思います。三、中ソ両党が会談を再開することは、兄弟党会議の成功にとって必要な準備の段取りです。わたしたちは、一九六四年十月十日から二十五日にかけて北京で中ソ両党会談を再開することを提案します。四、わたしたちは、中ソ会談後、各兄弟党代表者会議のより十分な準備をととのえるため、アルバニア、ブルガリア、ハンガリー、ベトナム、ドイツ民主共和国、中国、朝鮮、キューバ、モンゴル、ポーランド、ルーマニア、ソ連、チェコスロバキアおよびインドネシア、日本、イタリア、フランスの一七ヵ国の兄弟党代表者会議を開くよう提案します」

あなたがたは最近数ヵ月間に、何をやったでしょうか。

あなたがたは今年の二月十二日、わたしたちにかくれてこっそり兄弟党に一通の中国共産党に反対する書簡を送り、わたしたちに対して「集団的措置」を取るよう画策しました。わたしたちはこれまでなんどもあなたがたに、この書簡をわたしたちに送ってくれるように請求しましたが、いまもって送ってくれてはいません。あなたがたはわたしたちに借りがあるわけです。

あなたがたは今年二月十四日、ソ連共産党中央委員会総会で反中国報告をおこない、反中国決議を採択し、「公然と、断固として中国共産党指導部の誤った観点と危険な行動に反撃を加え」

なければならないとわめき立てました。

あなたがたは今年四月三日ソ連共産党中央委員会二月総会の反中国文書を発表し、ひきつづいてあらたな反中国カンパニアをまきおこしました。わずかに四月分の不完全な統計によっても、あなたがたの中央クラスおよび加盟共和国クラスの新聞・雑誌は一〇〇〇編以上の反中国論文と資料を発表しています。

あなたがたは政治的、組織的に兄弟党に対してほしいままに圧力を加え、兄弟党内部でさかんに転覆・分裂活動をおこない、変節者、裏切りもの、トロツキスト、チトー一味およびさまざまな反動派との結びつきを一だんと強めました。たとえば、あなたがたは志賀、鈴木らの党にたいする裏切り事件を画策して、マルクス・レーニン主義を堅持している日本共産党に打撃を加えています。あなたがたはインドネシアの反動勢力と積極的に結びついて、マルクス・レーニン主義を堅持しているインドネシア共産党に打撃を加えています。

これらすべては、あなたがたが、国際共産主義運動を公然と分裂させる準備を積極的に進めていることをしめしています。あなたがたは今年三月七日わたしたちにあてた書簡の中で、急いで分裂会議を開催するため、今年五月に中ソ両党会談をおこない、六、七月に二六の兄弟党による準備会議を、秋には兄弟党の国際会議をおこなうというあわただしい時間表を提出しました。

これはとりもなおさず、あなたがたが公然とした分裂の段取りを早めようとしていることを暴露しています。

わたしたちは、あなたがたの分裂活動が引きおこした重大な局面をしんけんに、くりかえし考慮し、あなたがたがひらこうとしているのは分裂会議であるということを見ぬきました。そこで、わたしたちは今年五月七日あなたがたにあてた書簡のなかで、当面のこのような状況のもとでは、兄弟党の国際会議は早く開くよりおそく開くほうがよいし、むしろ開くより開かないほうがよいと指摘しました。ほかならぬこのような理由から、わたしたちはこの書簡のなかで、中ソ両党会談を来年の上半期までのばす、たとえば来年の五月あたりが比較的適当であると提案しました。そして、当面の状況からみれば、国際会議の準備には四、五年あるいはもっと長い時間を要するかも知れないと指摘しました。

つまり、意見の相違を取り除き、団結をつよめ、共同して敵にあたるために、わたしたちは一貫して「多くの困難と障害を克服し」「多くの準備活動をおこない」、マルクス・レーニン主義の基礎のうえに立つ団結の大会を開くよう主張してきたのです。かつて、あなたがたが国際会議開催の具体的提案をださなかったとき、わたしたちは今年二月二十九日付書簡のなかで、国際会議開催を準備する具体的提案を提出しましたが、これは、団結を堅持し、分裂に反対するためで

した。いま、あなたがたが分裂会議を開こうと決意したとき、わたしたちは五月七日付の書簡で、さらに長い時間をかけ、より多くの困難と障害を克服し、「一連の準備活動をおこなう」ように主張しましたが、これも団結を堅持し、分裂に反対するためのものです。わたしたちが一貫して、急いで会議を開くことに反対し、国際共産主義運動を分裂させることに反対してきたのは、それが団結をつよめるのに不利であり、共同して敵にあたるのに不利だからです。

あなたがたも過去においては、多くの準備がととのっていない間は、国際会議を開くことは不可能であるといったではありませんか。ソ連共産党中央委員会第一書記フルシチョフは一九六三年一月十六日、もし急いで会議を開くならば「分裂に導く危険がある」といいました。ところが現在、あなたがたの方がかえって百八十度の大転換をおこなって、電撃戦の方法で国際会議を準備し、開催しようとしているのは、いったいなんのためでしょうか。

あなたがたはおそらく、そのいわゆる準備活動なるものがほぼととのったと見ているのでしょう。しかし以上にのべた事実からはっきりわかるように、あなたがたのいわゆる準備活動なるものは、意見の相違をとりのぞき団結をつよめるためのものではなくて、意見の相違を拡大し、分裂をつくりだすためのものです。あなたがたは団結の大会を開くために準備をしているのではなく、分裂会議を開くために準備をしているのです。

あなたがたがこのような準備活動をおこなえばおこなうほど、あなたがたが団結の大会開催にたいして設けた障害もますます大きくなり、マルクス・レーニン主義党がこのような障害を克服するためにおこなうべき準備活動もますます困難なものとなり、それに必要な時間もますます長くなり、当然マルクス・レーニン主義の基礎のうえに立つ団結の大会を開く期日もますます遠ざかっていくということはあきらかです。

あなたがたは今年六月十五日付の書簡で、急いで分裂会議を準備し、開催するように主張していますが、これは団結の大会をひらこうという全世界のマルクス・レーニン主義党の共同のねがいにまったくあい反するものです。

二

あなたがたの書簡は、あなたがたが国際会議のために、国際共産主義運動を分裂させる修正主義の政治綱領をすでに用意しおわったことを示しています。

あなたがたはその書簡のなかで、国際会議において「分離にむかう道ではなく、団結にむかう道を探求し」、力を傾けて「共通のもの」をさがしだし、「共同の立場を制定」する用意があるとのべています。これらのことばは、まったく人をあざむくものです。

あなたがたの書簡は、ソ連共産党第二十回大会が「世界共産主義運動全体の新しい路線の象徴」であると、かってなことをいい、ソ連共産党第二十回大会と第二十二回大会の制定した方針にそって「確固として前進し」なければならない、と表明しています。あなたがたはまた脅迫的な口調で、ソ連共産党第二十回大会と第二十二回大会の路線に賛成しないものは誰であろうと、「現代における創造的マルクス・レーニン主義にたいする共産主義運動中の保守勢力の反動」であり、「個人迷信の思想がしみこんだ」ものにほかならない、といいました。これは、あなたがたがソ連共産党第二十回大会を発端とし、ソ連共産党第二十二回大会で完成した、体系だった修正主義路線を国際共産主義運動全体に臆面もなくおしつけようとするものであります。あなたがたのいう「すでに生じた国際情勢の変動にもとづいて、宣言と声明の思想を補充し、発展させ、新しい問題を創造的に検討し、解決し」なければならないということは、ほかでもなく、ソ連共産党第二十回大会と第二十二回大会の修正主義路線をもって、宣言と声明のマルクス・レーニン主義の革命的原則にとってかわらせようとすることです。

あなたがたのなが年らい一貫している主張と行動から見れば、あなたがたの書簡のなかで提起され、国際会議におしつけようとする主要な観点の修正主義的本質は、このうえもなくはっきりしています。

あなたがたのいう「いま、大部分の社会主義国は自己の重要な発展段階を終えて、新しい社会の建設のなかであらたな里程標に近づきつつある」ということは、ほかでもなく、「全人民の党」とか、「全人民の国家」とかをデッチあげ、共産党のプロレタリア的性格を変え、プロレタリアート独裁を解消し、資本主義復活のために門を大きくあけはなとうとすることです。

あなたがたのいう社会主義諸国のあいだで「協力と相互援助の方式を改善し」「政治行動と経済行動を調整させる」ということは、ほかでもなく、兄弟国があなたがたの指揮棒にしたがい、経済的、政治的、軍事的にあなたがたの従属国になり、あなたがたの植民地になるよう要求することです。

あなたがたのいう資本主義諸国の労働者階級の闘争の「組織形態と方法にはひじょうに多くの新しいものがあらわれた」ということは、ほかでもなく、「議会の道」や「構造改革」論であり、「平和移行」であり、プロレタリア革命を解消することです。

あなたがたのいう「帝国主義植民地体制の瓦解は、いま完成の段階にある」ということは、ほかでもなく、帝国主義と新旧植民地主義に反対する被抑圧民族の闘争任務を解消することです。

あなたがたは社会主義諸国の対外政策を、一面的に「平和擁護、平和共存」にしぼっていますが、これこそ、帝国主義に反対するな、被抑圧人民と被抑圧民族の革命を支持するな、というこ

とであります。

あなたがたは、「アメリカとその他の帝国主義の『気違い』をかしらとする帝国主義反動派」という概念をもって、一九六〇年の声明に規定されている「アメリカ帝国主義は全世界人民の敵である」という概念にすりかえていますが、これこそ、あなたがたが「良識派」とよんでいるアメリカの支配グループと手をにぎり、アメリカ帝国主義とグルになって世界を分割し、各国人民の革命闘争に反対しようとするものです。

あなたがたのいう「意見の相違をのぞく」とか、「共通のもの」をさがし求めるとか、「建設的な綱領をもって会議に参加し」なければならないとかは、なんといおうと、マルクス・レーニン主義政党にソ連共産党第二十回大会と第二十二回大会のあの一連の修正主義路線をおしつけようとするものにほかなりません。

あなたがたは、もっとも好んで、一九五七年の宣言と一九六〇年の声明がソ連共産党第二十回大会についてふれている、あのひとくだりのことばをとりあげて、自分の資本としています。しかし、中国共産党がこのくだりのことばにずっと反対していることは、あながたが明らかに知っていることです。二回にわたる兄弟党会議の過程で、あなたがたは、もしこのくだりのことばが書きこまれなければ、あなたがたの毎日毎日がとてもやりにくくなる、と再三再四請求しまし

た。あなたがたの困難に配慮を示すために、わたしたちはやっと妥協したのです。一九六〇年の会議で、中国共産党代表団はかつて、これが最後の配慮であると声明しました。ところがいま、あなたがたは、こともあろうに、このひとくだりのことばをあなたがたの修正主義路線をおしすすめる守り札とし、マルクス・レーニン主義の兄弟党をたたきつける棍棒にしています。これは絶対に許されないことです。なぜひとつの党の決定に、すべての党を強引に服従させようとするのでしょうか。なぜ服従しないのが大罪を犯したことになるのでしょうか。おたずねしたい、これはどんなロジックで、兄弟党のあいだの相互関係のどんな準則なのでしょうか。

どうしても指摘しておかなければならないのは、あなたがたの第二十回大会と第二十二回大会の修正主義路線が、当面の国際共産主義運動の意見の相違の根源であるということです。あなたがたのこの修正主義路線は、ここ数年らい、ますます多くのマルクス・レーニン主義政党とマルクス・レーニン主義者の反対をうけており、しかも日ましに破たんしていっています。マルクス・レーニン主義を基礎として団結する兄弟党の国際会議をひらこうとすれば、どうしてもあなたがたのこの修正主義路線を徹底的に批判しなければなりません。あなたがたはこの修正主義路線を兄弟党の国際会議に強引におしつけようとしていますが、これは、あなたがたが公然たる分裂会議を開こうと決意したことをあらわすだけです。

三

あなたがたが、その書簡のなかで提起した、不法に国際会議を準備し、開催する順序と段どりは、公然と国際共産主義運動を分裂させる一連の組織的配置であります。

あなたがたは、すっかりお膳立てをすませています。つまり、どんな会を開くか、だれが準備するか、だれが参加するか、だれが招集するか、すべてがあなたがたのいいなりしだいです。あなたがたから見れば、すべての兄弟党はみなカイライにすぎず、あなたがたの命令にしたがう資格しかないのです。あなたがたのこの一連のやり口には、大国排外主義と「おやじの党」のにおいがしみこんでいます。

第一、兄弟党国際会議の準備会議について　わたしたちは本年二月二十九日付の書簡のなかで、一七ヵ国の兄弟党の代表からなる準備会議を提案しましたが、あなたがたは同意しませんでした。わたしたちはまた、五月七日の書簡のなかで、原則的には準備会議のメンバーをふやすことに反対しないが、なによりもまず、マルクス・レーニン主義を堅持しているいくつかの兄弟党を考慮にいれるべきだと表明しました。ところが、あなたがたはこんどの書簡で、依然としてわたしたちの情理にかなった意見を考慮にいれず、あくまで二六の党の代表によって準備会議を構成しようとしています。

あなたがたは、きっと覚えているはずです。一九六〇年のモスクワ会議の文書起草委員会を成立させることは、一九六〇年のブカレスト会談の直前に、中国共産党中央委員会があなたがたにおくった書簡のなかで提案したものであり、起草委員会の二六のメンバーは、各兄弟党の話し合いによって確定されたものです。この二六の兄弟党は、単に一九六〇年のモスクワ会議の起草委員会のメンバーであって、世襲権はなく、国際会議をそのつど準備する常設機構のメンバーでもなく、いわんやこのような常設機構は全然存在していません。

わたしたちが本年五月七日の書簡のなかですでにのべたとおり、現在の状況は一九六〇年とひじょうに大きなちがいがあります。二六ヵ国のうち、いくつかの国にはすでに二つの党が出現しており、いったいどちらの党が参加するかについて、わたしたちとあなたがたとのあいだには意見の相違があり、数多くの兄弟党にもちがった意見があります。

国際会議の準備会議の開催と参加メンバーの問題については、かならず兄弟党が話し合いをつうじて意見の統一をはからなければなりません。そうでなければ、どのような準備会議をひらいても、それはすべて不法なものです。

第二、中ソ両党会談について　中国共産党と多くの兄弟党はみな、中ソ両党会談をおこなうこ

とが、国際会議をひらくのに必要な準備の段どりの一つである、と考えています。あなたがたも、かつてはこのようにいいました。本年の三月七日になっても、あなたがたは、その書簡のなかで、なお「かならずソ中両党代表による両党会談を再開し、そのあとですべての共産党・労働者党の会議を準備し、開催しなければならない」とのべています。

現在、あなたがたは書簡のなかで、中ソ両党会談を兄弟党国際会議の準備活動からきり離し、わたしたちが本年五月七日付の書簡で提起した、中ソ両党会談の再開に関する具体的提案にたいしては回避して答えず、ただ中ソ両党の会談は「ソ連共産党と中国共産党がいつでも話し合いをつうじて解決できる」などとお茶をにごしているにすぎません。あなたがたは、明らかに、中ソ両党会談をあってもなくてもよいものだと見なしており、中ソ両党会談をそっちのけにし、中ソ両党が話し合いをつうじて意見の統一をはからないという状況のもとで、国際会議を準備し、開催しようとねらっています。これは、分裂の会議をひらこうと決意しているのでなくて、なんでしょうか。

第三、兄弟党国際会議のメンバーについて　あなたがたの書簡には、一九五七年と一九六〇年の会議に参加し、その文書に署名した党はみな、こんどの国際会議に参加できるといっています。これはどういう意味でしょうか。周知のように、裏切り者チトー一味は一九五七年の会議に

参加したし、『平和宣言』に署名しました。あなたがたが、一九六〇年の兄弟党会議で一致して非難されたチトー一味を兄弟党国際会議にひっぱりだそうとしているのは明白です。これはわたしたちの断固として反対するところです。

あなたがたの書簡にはまた、国際会議の新しいメンバーの問題で、ひとつのデタラメきわまる規準がもちだされています。この規準によると、あなたがたの修正主義「総路線」を擁護する党だけが参加できて、修正主義との決裂を宣言して再建されたマルクス・レーニン主義の政党は参加を許されません。あなたがたに卒直にいっておきますが、これは絶対に通用しないものです。もしマルクス・レーニン主義を基礎として団結する兄弟党の国際会議をひらこうとするなら、再建されたこれらのマルクス・レーニン主義の政党は当然参加する権利があり、誰にもかれらの参加を拒否する権利はありません。もし、あなたがたが修正主義者の分裂会議をひらき、マルクス・レーニン主義政党が国際共産主義運動を分裂させるあなたがたの陰謀にくわわるのを期待するなら、それは絶対にできない相談です。

第四、兄弟党国際会議の招集者について　あなたがたの書簡は、ソ連共産党が国際会議招集にたいして「特殊な責任」をもっているとのべ、一九五七年の会議の決議と毛沢東同志の演説をその引きあいにだしています。しかし、あなたがたが引きあいにだしたこの決議には「各兄弟党と

話し合うという条件のもとで、ソ連共産党に責任をもって共産党・労働者党会議を招集することを委託する」と明白に書かれています。これは、かならず各兄弟党と話し合って、はじめて会議を招集することができるということにほかなりません。毛沢東同志は、ソ連共産党が責任をもって国際会議を招集するということを提起した際、ほかでもなく、事前に各兄弟党と話し合うことを前提にしたのであって、あなたがたが独断専行してもよいということを、みじんも意味してはいません。わたしたちはまた、一九六〇年の兄弟党会議で確立された兄弟党が話し合いをつうじて意見の統一をはかるという原則を指摘しなければなりません。したがって、国際会議をひらくには、かならず兄弟党の一致した同意をえなければならず、一部の兄弟党の意志を他の一部の兄弟党におしつけ、会議の開催に同意するよう、かれらに強要することはできないのです。もし、あなたがたが腹をすえて、この原則をふみにじり、すべての兄弟党とよく話し合って一致したとりきめを結ばないならば、あなたがたには国際会議を招集する権利は全然ありません。

さきにのべた国際会議を準備し、開催する順序や段どりについてのあらゆる問題で、もとからあったもの、再建されたもの、新しく創立されたものをふくめた世界各国の兄弟党はみな、あれこれの意見をもっているはずです。これらの意見はすべて、充分に尊重され、考慮されなければなりません。これらの問題にたいしては、各国の兄弟党はかならず平等に話し合うという原則に

もとづいて、両党あるいは多党会談をつうじて一致したとりきめに到達しなければなりません。もしあなたがたが覇王をもって自任し、命令を下して、兄弟党国際会議の準備と開催を強行するなら、それはまったく不法であり、同様にあなたがたが公然たる分裂の会議をひらく決意をしたことを示すだけです。

四

ここ数年らい、現代修正主義にたいするたたかいのなかで、世界各国のマルクス・レーニン主義勢力はいたるところで、急速な発展と成長をとげました。多くの国のマルクス・レーニン主義者は、修正主義者の分裂活動をまえに、身を挺して立ちあがり、ごく短い期間のうちにマルクス・レーニン主義の政党あるいはグループを再建して、共産主義の戦士としての偉大な革命的気はくと英雄的な戦闘精神をあらわしました。このため、これらの国の革命運動には活気にみち、はつらつとした局面があらわれています。このたたかいのなかで、現代修正主義者はマルクス・レーニン主義を裏切る自分の正体を日ましにさらけ出しており、多くの党の修正主義的指導グループはすでに革命的人民からすっかり見すてられています。こうしたことはみな、あなたがたの期待に反し、あなたがたに焦慮と不安をいだかせ、かぎりない恐怖をいだかせています。

あなたがたはその書簡のなかで、わたしたちが「分派活動と分裂活動をつよめ、しきりに論争を先鋭化している」とさかんに攻撃しています。これはただ、あなたがたが強大なマルクス・レーニン主義の力に肝をつぶし、すでに精神が錯乱して、世まいごとをならべたてるところまで堕落したことを物語るだけです。

いま、オーストラリア、ベルギー、ブラジル、セイロン、その他多くの国ぐにの共産党にあらわれている分裂はみな、あなたがたが修正主義と分裂主義の路線をおしすすめ、気ちがいじみた転覆活動と分派活動をおこなった結果生じたものです。ほかでもなく、あなたがたが指揮棒をふりまわして、修正主義の路線をいちぶの兄弟党におしつけ、これらの党の修正主義的指導者をそそのかして、横暴にも党内のマルクス・レーニン主義者を排除し、これに迫害をくわえ、あげくのはてはかれらを党から除名して、これらの党を分裂させてしまったのです。これらの党のマルクス・レーニン主義者は党内で修正主義反対の闘争をすすめる権利を奪われた以上、プロレタリアートの革命政党を再建して、修正主義反対の闘争をつづけるよりほかありません。あなたがたが修正主義と分裂主義の路線にしがみつけばしがみつくほど、いっそう多くのマルクス・レーニン主義者がプロレタリアートの革命政党を再建して、あなたがたと闘争をすすめることでしょう。闘争の論理はかならずこうしたものであり、また、これ以外のものではありえないのです。

あなたがたは国際共産主義運動の最高裁判官をきどって、再建またはあらたに創立されたマルクス・レーニン主義のグループや政党は、「共産主義運動のそとに身をおくものであり、いかなる勢力もこれを共産主義運動の隊列にひきいれることができない」といっています。まるであなたがたが承認し、批准しさえしなければ、一切の事物は地球上に存在しないかのようです。これはすべての腐敗勢力が新生勢力に対処する哲学にほかなりません。人類史上あらゆる新生勢力はすべて、腐敗勢力が頑として認めようとしない状況のもとで発展し、成長してきたものです。第二インターの修正主義者はレーニンのボルシェビキ党を認めなかったし、アメリカ帝国主義もかつてソビエト国家を認めず、いまは中華人民共和国を認めていません。だが、ともにこれらの発展をはばむことはできなかったのです。あなたがたがマルクス・レーニン主義の新生勢力を認めなくても、マルクス・レーニン主義の新生勢力はやはり全世界に存在し、発展しています。あなたがたがかれらを口ぎたなくののしればののしるほど、かれらの行動が正しく、かれらのやり方がすぐれていることを証明することになるのです。

あなたがたとは反対に、わたしたち中国共産党とその他のマルクス・レーニン主義的兄弟党は、プロレタリアートの革命政党を再建したこれらのマルクス・レーニン主義者にきわめて大きな敬意をはらっています。これらの人びとと密接な連係をたもち、その革命闘争をだんこ支持す

ること――これはわたしたちがはたさねばならぬ、回避することのできないプロレタリア国際主義の責任です。わたしたちは、これまでもそうしてきましたし、いまもそうしています。あなたがたがどんなに悪罵をあびせようと、わたしたちは今後もそうしますし、いっそう多く、いっそう立派にやるつもりでいます。

わたしたちはまたあなたがたに警告しておかなければなりません。あなたがたが、マルクス・レーニン主義を堅持し、修正主義に反対する兄弟党にたいしてすすめている干渉と転覆活動は、きっと徹底的な破産のうき目をみるでしょう、と。あなたがたのこうした卑劣な行動は、あなたがたが反動派と野合し、各国人民の革命闘争をぶちこわしているそのみにくい正体をさらけだすだけであります。さいきん、あなたがたは日本共産党中央委員会にあてた書簡を一方的に公表し、アメリカ帝国主義と自国の反動派にたいする闘争の前線に立つ英雄的な日本共産党にたいして凶暴にも公然たる攻撃をくわえました。あなたがたは米日反動派と手をむすんで、日本共産党の裏切りもの志賀、鈴木らを支持し、日本共産党を転覆し、日本の革命運動を破壊しています。わたしたちは、あなたがたのこのようなプロレタリア国際主義にそむく犯罪行為にだんこ反対します。わたしたちは、あなたがたの干渉と転覆活動に反対する日本共産党の闘争をだんこ支持します。わたしたちは、あなたがたの破壊活動に反対するインドネシア共産党とその他のマルクス・レーニン主義的兄弟党の闘争をだんこ支持します。

公然たる論戦の問題となると、それがあなたがた自身のひきおこしたものであることは、だれもが知っていることです。当初、あなたがたはどうしても公然たる論争をおこそうとし、どんなにとめても聞きいれず、とめればとめるほど、いたけ高になりました。あなたがたは、この調子でおしてゆけば、マルクス・レーニン主義者を圧倒し、地球上から抹殺できると思いこんでいたのです。ところが、事態はみるみるうちにあなたがたの期待に反する方向に発展してゆきました。この大討論のなかで、あなたがたの修正主義的な正体はいちはやく、いちぶは徹底的にあばかれてしまいましたし、マルクス・レーニン主義勢力は急速に成長しました。この大討論は、修正主義の残滓を一掃する溶鉱炉となり、プロレタリア世界革命のあらたな高まりが必ずやってくることを予告しています。いま、あなたがたは恐れてもなんの役にも立たず、消しとめようとしても消しきれるものではありません。火はすでにあなたがたによって放たれ、公然たる論戦の炎が全世界に燃えひろがっているのです。あなたがたはいままたそれを紙でつつみこんでしまおうとしていますが、どうしてそんなことができるでしょうか。

あなたがたはその書簡のなかで、わたしたちが「とめどなく公然たる論戦をすすめよう」としていると非難しています。だが、わたしたちはあなたがたに告げておきたいと思います。わたし

たちは、あなたがたの昨年七月十四日付の公開書簡にたいしてまだ回答を終わっていないし、あなたがたの今年の二月総会における反中国報告と反中国決議にたいしてもまだ回答をはじめていません。また、あなたがたが一年このかた発表してきた三〇〇編をこえる反中国の論文と資料にたいしても回答の権利を留保しているのです。あなたがたが修正主義の路線にしがみつき、公然と誤りを認めようとしないかぎり、わたしたちはどうしても大論争をつづけてゆきます。あなたがたがすでに徹底した修正主義の綱領をもちだし、あくまでもこれを国際共産主義運動におしつけようとしている以上、わたしたち、マルクス・レーニン主義の党、厳粛な党が、あなたがたの修正主義を徹底的に暴露し、批判するのは理の当然であります。マルクス・レーニン主義の基本原理にたいし、国際共産主義運動の総路線にたいし、このような原則問題にたいして、もしも徹底的に是非を明らかにするのでなければ、兄弟党にとってほかにどのような団結の基礎があるでしょうか、またどうして兄弟党の国際会議を成功させることができるでしょうか。

あなたがたの書簡は、双方がそれぞれの新聞・雑誌に相手方の論争の文章と資料を発表するというわたしたちの提案をまたしても拒否しています。見うけるところ、わたしたちの提案はあなたがたをふるえあがらせているようです。あなたがたは、あなたがたがわたしたちの資料を発表しないのは、中国共産党と中国人民にたいするソ連人民の「友好と兄弟のよしみ」をぶちこわさ

ないためだと弁解していますが、これはまことに奇怪な論理です。あなたがたは数千編にのぼる論文と資料を発表して、中国共産党にあくどい中傷と悪罵をあびせ、人びとをまどわすデマの限りをつくしています。それでも中ソの友宜をぶちこわすものでないというのでしょうか。あなたがたは、わたしたちが「エセマルクス主義」「現代のトロツキズム」「露骨な小ブルジョア的ユートピアニズム」「直接の反ソ主義」「反共主義」「好戦的な民族主義」「人種差別主義」「大漢民族主義」「覇権主義」「北京の変節者」「現代の革命のスト破り」「エセ革命分子」「現代右翼社会主義者の教父」「帝国主義反動勢力と結託した一味」「救いようのない植民地主義者と結託した一味」などとのしっています。あなたがたのこうしたあらんかぎりの悪口雑言が、はたして中ソの友宜を擁護するものといえるでしょうか。あなたがたがわたしたちの提案をこばみ、事実をあげて道理を説くわたしたちの論文や資料をあなたがたの新聞・雑誌に発表する勇気がないのは、広はんなソ連人民とソ連共産党員が中ソの友宜を大事にし、是非を見わけることができ、かれらがいったん、わたしたちの資料を目にし、事態の真相を理解するなら、あなたがたがいよいよやりにくくなるということを、あなたがた自身が百も承知しているからにほかなりません。これはきわめて明らかなことです。

あなたがたはその書簡のなかで、自分に度胸をつけるため、あなたがたが正しく、わたしたち

が誤っていることは時が経てばたつほど立証されると、わめいています。はたしてそうだとすれば、あなたがたはどうしてまたこれほど落ち着きを失っているのでしょうか。どうしてこれほど声をかぎりにマルクス・レーニン主義の新生勢力をののしるのでしょうか。どうしてこれほどせっかちに公開論争の停止を要求するのでしょうか。どうしてこれほどあわただしく国際会議を開こうとするのでしょうか。わたしたちの路線が間違っていることを時間に立証させればよいではないでしょうか。はっきりいえば、時はあなたがたの味方ではなく、あなたがたは自分の前途に自信を失っているのです。事態はひっぱくしており、あなたがたの書簡は道理がとおらず、意気があがらず、ただ、空威張りをするだけで、鼠のように肝っ玉が小さい、これこそ、あなたがたのこうした心理状態を反映するものにほかなりません。だが、だからといって、ほかにどんな方法があるでしょうか。すべてはあなたがたがみずから招いたことなのです。あなたがたがみずから天にむかって唾した以上、また誰をうらむことができるでしょうか。

五

中国共産党は、充分な準備をしたうえで、マルクス・レーニン主義の基礎のうえに団結する兄弟党の国際会議をひらくことをあくまで主張し、あなたがたが分裂のための会議をひらくことに

だんこ反対します。

中国共産党中央委員会はおごそかに声明します。われわれは、国際共産主義運動を分裂させるあなたがたの国際会議や、その準備会議にはだんじて参加しない、と。

だれが見ても、いま、国際共産主義運動における意見の相違はこれほど重大であり、その論争はこれほど激烈なものであります。ですから、もしも急いで国際会議を開くなら、ただ不成功におわるだけで、成功するはずがないということはあきらかです。もしもあなたがたがわたしたちの厳正な警告をかえりみず、話し合いで見解を統一する原則をふりすて、是が非でも不法に、一方的に国際会議をひらくなら、それはただ、公然たる分裂という結果が残るだけです。

一九四三年にコミンテルンが解散してから一九五七年までに十四年の年月がたちましたが、この期間をつうじて、世界各国共産党の国際会議はずっと開かれませんでした。だが、だからといって、国際共産主義事業の発展がさまたげられたわけでは決してありません。反対に、この十四年間に、中国革命は偉大な勝利をかちとり、東欧とアジア、アフリカ、ラテンアメリカの一連の国ぐにのいろいろな型の革命は偉大な勝利をおさめ、その他の国ぐにの革命事業もひじょうに大きな発展をとげました。経験が立証しているように、各国の共産党にとってもっとも重要なことは、マルクス・レーニン主義の普遍的真理を自国の革命の具体的な実践とたくみに結びつけるこ

とであり、マルクス・レーニン主義の革命路線を堅持し、自主独立の態度で革命闘争をおしすすめることであります。およそこうしたものは、すべて、自国人民の革命事業を一歩一歩と勝利にむかわせたし、国際プロレタリア革命の事業に貢献することができたのです。およそこうしないものは、すべて、革命事業に挫折と失敗をもたらすことになるでしょう。

一九五七年いらい、各国の共産党はすでに国際会議を二回開いています。一九五七年の兄弟党会議では、国際共産主義運動の共同綱領が制定されました。だが、この会議ののちまもなく、あなたがたは宣言の革命的原則をなげすてて、ほしいままにあなたがたの修正主義路線をおしすすめ、それを兄弟党におしつけました。一九六〇年の兄弟党会議では、わたしたちとその他のマルクス・レーニン主義的兄弟党は、あなたがたの修正主義路線に厳正な批判をくわえました。だが、あなたがたはすこしも悔いあらためず、またしても一九六〇年の声明の革命的原則をなげすてて、反マルクス・レーニン主義的立場をとりつづけ、国際共産主義運動の意見の相違をたえず拡大し、深めました。こうした状況のもとで、どうしてマルクス・レーニン主義の基礎のうえに立つ団結の大会を開くことができるでしょうか。

ですから、わたしたちはいうのです。「いまのような状況では、兄弟党の国際会議はやはり早く開くよりおそく開くほうがよいし、むしろ開くより開かない方がよい」と。いぜん、十四年間

も兄弟党の国際会議を開かなかったが、なんら悪いところがなく、反対にひじょうに良かったのです。それなのに、どうしていまこれほどあわてて会議を開こうとするのでしょうか。

あなたがたはいま分裂の大会を招集しようとしています。いや、分裂の小会というべきでしょう。なぜなら、全世界の共産主義者のうち、ほんとうに修正主義を信じているものは、共産主義者の総数からみてごく一握りのものにすぎず、そのうえ、これらの人びとはかならず失敗するにちがいないからです。世界の修正主義者たちは、きわめて団結しておらず、意見も一致しておりません。本当に心からあなたがたの指揮棒にくっついてまわる人は、すこしはいますが、ますます少なくなっています。ですから、あなたがたが話し合いをせず、兄弟党の同意もえないで、一方的に、むりやりに開こうとするいわゆる大会は、ブルジョアジーに奉仕するための反共、反人民、反革命の取るにたらないちっぽけな会議にすぎず、往年の第二インターがレーニン主義に反対して開いたいくつかのいわゆる大会と同じようなものにほかなりません。この点は、やがて歴史が立証することでしょう。

あなたがたは腹を決めた以上、おそらく会議を開かねばならないでしょう。もしも開かねば、口先だけに終わることになり、後世まで笑い草になるではありませんか。騎虎の勢いとはこのことです。苦境においこまれて、やめようと思ってもやめることができず、みずから設けたおとし

穴にみずからはまりこんで、ついに一命をうしなうこととなるのです。もしも会議を開かなければ、あなたがたは中国人や各マルクス・レーニン主義政党の勧告を聞きいれたと言われ、あなたがたの顔がまるつぶれになります。もしも会議をひらけば、これからさき絶体絶命の窮地に踏みいり、もはや方向転換の余地がなくなります。これこそ、あなたがた修正主義者が現在という歴史的に重要な時期にみずからまねいた重大な危機にほかなりません。あなたがたはまだ気がつかないのでしょうか。わたしたちは、あなたがたのいわゆる大会開催の日こそ、あなたがたが墓場にはいるときだ、と確信しています。

親愛なる同志のみなさん、わたしたちは、いま一度あなたがたにまごころから勧告します。やはり崖っぷちで手綱をひきしめるのがよい。あの虚偽にみちた無用の「面子（メンツ）」なるものには未練をいだかないことだ、と。もしもあなたがたが聞きいれず、是が非でも絶体絶命の道をすすむというのなら、どうか好きなようにしていただきたい。そのとき、わたしたちとしては、こう言うよりほかはありません。「花が落ちるのはどうすることもできぬが、かつてなじみのある燕はまいもどってくるだろう」と。

兄弟のあいさつをおくります。

中国共産党中央委員会

一九六四年七月二十八日

中国共産党中央委員会にあてた ソ連共産党中央委員会の書簡（一九六四年六月十五日付）

中国共産党中央委員会

親愛なる同志のみなさん

ソ連共産党中央委員会はあなたがたの五月七日付の書簡をうけとりました。この書簡のなかには、わたしたちの今年三月七日付の書簡にたいする回答がふくまれています。あなたがたはその書簡で、ソ連共産党やその他のマルクス・レーニン主義政党が、共産主義運動のなかの困難を克服するためにもちだしたすべての提案を拒否したばかりでなく、事実上において各国の党の代表との会見を拒否し、話しあいを拒否し、全世界の共産主義者がすべて不安を感じている共通の問題についてこれらの代表とともに討議することを拒否しています。中国共産党中央委員会が各国兄弟党の意見を軽視し、その声に耳をかさず、意見の相違を克服する道を共同してさがしもとめることに参与したくないという態度をこのように公然としめしたことは、いまだかつてありませ

んでした。あなたがたの書簡のすべての内容とその乱暴な語調は、分裂をゆるさず団結を堅持するという中国共産党中央委員会のいくども表明した願いに反して、あなたがたこそ意見の相違を克服しようとしておらず、実際には国際共産主義運動の団結に反対していることを、はっきりと物語るものです。あなたがたは自分の目的が分派活動、分裂活動を気ままにやれるようにするためであるということさえ、かくそうとしておりません。われわれの運動のなかに生じた困難に焦慮を感じている各国のマルクス・レーニン主義政党としては、あなたがたの書簡をこのように評価するほかはないのであります。

ソ連共産党中央委員会は三月七日にあなたがたに書簡をおくるにあたって、つぎのような点から出発しました。つまり、世界共産主義運動のなかに生まれた情勢は、困難を克服する適当な方法を集団的に研究し、共同で確定し、すべての兄弟党の団結を実現することを要求しているということです。そのため、わたしたちは、できるだけ早くソ中両党代表団の会談をおこない、二六ヵ国の党の代表が参加する準備会議をひらき、さらに兄弟党との話しあいのもとに今年じゅう国際会議をひらくことを提案しました。わたしたちがかつて考えたように、公然たる論戦を停止し、社会主義共同体と共産主義運動のなかですすめられ、すでにわたしたちの事業にすくなからぬ損失をもたらしているいかなる破壊・分裂活動をも放棄することは、これらの措置を首尾よ

く実現させる必要条件であります。わたしたちは、ソ中両党代表の会談と共産党国際集会の開催をあくまでも主張している大多数の兄弟党の願いを考慮にいれました。このような国際集会では、同志的な雰囲気のうちに、共産主義者の兄弟的な大家庭のなかで、すでにあらわれた問題をともに討議し、中国共産党指導部の分裂活動によってひきおこされた意見の相違を力をあわせて一掃することができるのです。

ソ連共産党中央委員会が三月七日の書簡でおこなった提案は、世界共産主義運動のなかで積極的な支持をうけました。こんにちまでのところ、すでに圧倒的多数の兄弟党が会議の即時開催を支持するむね表明しています。いちぶの党は原則上会議の開催に賛成しながらも、あなたがたが会議の開催をこばんでいることを考慮にいれて、会議をひらく具体的な期日については態度を留保しています。けれども、中国共産党とアルバニア労働党をのぞいては、共産主義運動の困難を克服し、共産主義運動の団結を強めることを目的とした集団的措置をとる必要性に反対している党指導部は一つもありません。

中国共産党中央委員会は五月七日付書簡のなかで、会議を「四、五年、あるいはもっと長い期間」おくらせるよう提案するとともに、「むしろ開くより開かない方がよい」とさえ言っています。あなたがたはまた、つい先ごろ中国共産党中央委員会が今年の十月に開くよう提案した両党

会談をずっと引きのばし、そのうえ、会談の開催に同意したさい、さまざまの留保条件をつけました。このような保留は、いったい中国側は両党会談に関心をもっているのかどうかを疑わせるものです。

このため、わたしたちは、中国共産党中央委員会がすでに自分の提案を放棄したものと認めます。中国共産党の指導者はひさしい以前から、自分が会議の早急な開催を提唱するものであるかのようにみせかけ、あたかもソ連共産党がこれをこばんでいるかのように言っていました。一九六二年の冬、インドネシア、ベトナム、ニュージーランドの共産党が会議の開催を提案したとき、あなたがたはかれらの提案を支持しました。一九六二年四月七日、あなたがたは、会議をひらくことは「兄弟党のあいだにいま存在している意見の相違を克服するうえで現実的な積極的意義がある」と書きました。一九六二年の末、あなたがたの代表団はハンガリーとチェコスロバキアの兄弟党の大会で発言し、中国共産党中央委員会のこの立場を公然と立証しました。そのご、あなたがたは、一九六三年三月九日と一九六三年六月十四日にソ連共産党中央委員会へあてた書簡のなかで、会議を開くことを主張しました。最後に、あなたがたは一九六四年二月二十九日付の書簡で、またもや白紙に墨くろぐろと、「中国共産党は世界各国共産党・労働者党代表者会議の開催を一貫して主張してきたし、また積極的に支持している」と書いたのです。

ところが、ソ連共産党中央委員会とその他の兄弟党が具体的に会議の問題を提起すると、あなたがたはたちまち百八十度の転換をしました。中国共産党中央委員会の立場がきわめて矛盾し、論理にあっていないことは、だれがみても一目でわかることです。つい先ごろまで、あなたがたは会議の開催を熱心に主張し、自分が会議開催の提案を最初に支持したことを誇りにさえし、会議をひらくことは有益なことであると考えていました。ところが、いま中国共産党の指導者はまったく別なことをいっています。かれらは、会議は時機にかなっておらず、共産主義運動にさまざまな災難をもたらすとまで考えています。見うけるところ、このような動揺はつぎのように解釈するほかないように思われます。つまり、共産主義者の国際会議ではあなたがたの政治的、思想的綱領が支持される望みがないため、過去であると現在であるとを問わず、あなたがたはいまだかつて会議の開催をまじめに考えたことがないということです。してみると、中国共産党中央委員会は共産主義運動の団結をまもり、強める問題にあまり不安を感じていないという見方が生まれ、中国共産党中央委員会は会議の問題を不体裁な政治劇の対象にかえていっそう多くの困難をつくり出そうとしているという見方が生まれてくるのも、理の当然であります。

あなたがたはあらゆる手をつくして、他の党の意見をすこしも相手にしない態度をしめし、そのうえ、かれらの「断固とした反撃」をおそれないとおおっぴらにいっています。けれども、そ

の実、あなたがたは共産党の国際会議に参加することをおそれ、誠意にみちた率直な話しあいを極力さけ、自分の誤った綱領と国際共産主義運動の路線とを比較することを極力さけているのであります。

あなたがたがもち出してきた会議開催反対の理由は、まったく筋がとおっておりません。あなたがたは、国際会議や中ソ両党の代表者の会談は「ひとしきり言い争ったあと、なんの成果もなしに散会し」、「公然と分裂して、それぞれの道をあゆむ」だけだと断言しています。

だが、こうした問題を提出することができ、会議の分裂を事前に予言することができるのは、ただ事態を分裂へみちびこうと決意した人だけであります。もしも会議で意見の相違を大きくする路線がとられるなら、また、もしも誰かを非難し、これに侮辱的なレッテルをはり、無責任な非難をおこなうことが会議の目的とされるなら、この会議でえられるものは、団結の強化ではなくて、いっそうの分離であるということ、これはまちがいありません。

だが、ソ連共産党をはじめ、意見の相違のすべての段階でつねにあらたな国際会談挙行を主張してきた各兄弟党は、このような路線をだんこ拒否し、会議へのこのような態度をだんこ拒否しています。わたしたちにとって、会議の問題はわたしたちの運動の団結をまもり、強める問題と切りはなしえない密接な関係をもっています。わたしたちの出発点は、共産主義運動のなかに

発生した意見の相違を前にして、まず力を集中して、すべての兄弟党を団結させる共通のものをさがし出し、すでに発生した困難を克服する方法をさがし出すということです。各兄弟党が意見の相違を克服し、共同の立場を定めるには、国際集会で集団的に意見を交換するのが一番よい方法です。このような国際集会では、どの党も自己の独立性を完全に保持することができるし、同時に世界共産主義運動の統一した路線の制定に積極的に参加することができるのです。

共産主義運動のなかにはげしく燃えあがり、これにすくなからぬ損失をもたらした意見の相違と論争は、例外なくすべての党の利益にかかわるものです。したがって、どの党も各分野の切実な問題を討議し、解決し、団結を強めるという共同の事業に貢献する権利と義務があります。まさに、会議によってどの党も各方面の意見をきき、率直に事実に即して自己の観点をのべる可能性があたえられ、あとで共同の路線や共同の決議をさだめるさいに自己の観点をも考慮に入れてもらうことができるのであります。

ソ連共産党はどうかというと、わたしたちが会議の開催を提案するにあたって考えたことは、ソ連共産党第二十回大会、一九五七年のモスクワ会議、一九六〇年のモスクワ会議ののち共産主義運動のなかで確立された原則に完全に依拠して、われわれの運動の局面を正常化し、論争問題を真剣に討論するという団結の路線を会議で実行してゆきたいということでした。このような討

議は意見の相違を大きくするのではなく、原則にもとづく団結を強めることになるでしょう。わたしたちは、この面で、克服できない客観的障害などないと確信しています。必要なのは、ただ国際会談に出席したすべての参加者が少なくとも最低限の誠意をしめし、善意をもって他人の意見に耳をかたむけ、これを理解し、分離ではなく団結へ向かう道をさがしもとめるという心がまえだけです。もしもすべての党の代表が困難の克服に関心をもつなら、また、中国共産党代表団がソ連共産党とその他の党が必要と考えているように、すべての参加者とともに相互の理解をふかめる願いをもち、建設的な綱領をもって会議に参加するなら、会議は団結の強化へ向かう転換点となることでしょう。

ソ連共産党中央委員会は、中国共産党中央委員会とその他の兄弟党との意見の相違がひじょうに重大であり、あまりにもかけはなれすぎていることをひじょうによく知っています。公開論戦の過程に、各党間の相互の理解を妨げている本質に無関係な、デッチあげたものが少なからず累積しています。現代の重大な諸問題と世界共産主義の重大な政策問題について、一連の原則的な意見の相違があらわれ、ひじょうに先鋭な程度にたっしています。したがって、マルクス・レーニン主義政党がすべての問題で意見を一致させようといかに努力しても、会議の過程で一挙にこれを解決することはできないでしょう。だが、たとえ会議の結果がそうなったとしても、中国共

産党の指導者がかたくなに予言しているようなああした分裂を意味するものにはならない、とソ連共産党中央委員会は信じています。わたしたちはまた、このような状況のもとでも、会議でつぎのような問題については話しあいをまとめることができると思っています。各国の共産党が会議のすべての参加者、すべてのマルクス・レーニン主義政党の意見を考慮したうえで、立場と利益が共通している領域では善意をもって協力をすすめ、こんご困難を大きくして、階級敵をよろこばせることになるような行動は絶対にとらないという義務を負うことがつまりそれであります。わたしたちは問いたいのです。このような態度をとることが、どうして会議を分裂に導き、共産主義運動の局面を悪化させることになるのでしょうか。

わたしたちの考えによると、わたしたちが提案した、各国共産党の相互関係についての準則と原則にまったく合致するこの会議の手続きは、まったく現実的なものであります。問題はただ、実際に、団結にたいして最低限の関心をもち、忍耐と善意をしめすことにあるのです。共産主義運動は、これらすべてをその個々の隊列に期待する権利をもっています。すべての兄弟党とその指導者がもしもわたしたちの運動の運命に歴史的な責任感をもち、事態の重大性と分裂によっておこりうる結果をすべて理解するなら、会議の成功にたいしていかなる疑念をもいだく余地はありません。

ソ連共産党中央委員会は、新たな国際会談をひらく考えを堅持しています。その出発点は、この会議をおこなう必要性が意見の相違を克服する（この任務自体がどんなに重要であろうと）という利益だけによって決められたものではないということです。共産主義者は帝国主義に反対し、平和、民主、民族独立をかちとり、社会主義と共産主義の道にそって勝利のうちに前進するためのたたかいのなかで、自分の負っている責任を一刻たりとも忘れてはなりません。

前回の国際会議から現在まで、すでに四年近くたっています。その数年のあいだに、世界には少なからぬ重大な変化がおこっていますが、これらの変化を検討し、総括し、そこから結論を引きだす必要があります。過去数年のあいだに、世界社会主義体制はひじょうに大きな成果をおさめ、その経済的実力は増強し、世界の発展にたいするその政治的、思想的影響は大きくなりました。いま、大部分の社会主義国は、その重要な発展段階を終えて、新しい社会の建設のなかで新たな里程標に近づきつつあります。これらの社会主義国が社会主義と共産主義の道にそって、ひきつづき前進するという任務は、協力と相互援助の方式の改善、経験の交流、政治活動と経済活動の調整を、日ましにさしせまって要求しています。

国際情勢のなかには、対立した二つの方針がいっそうはっきりとあらわれています。一つは社会主義諸国が実行しており、しかも人類の圧倒的多数が支持している平和擁護、平和共存の方針

であり、もう一つはアメリカとその他の帝国主義国の「気違い」をかしらとする帝国主義反動派が実行している、国際緊張を激化させ、戦争の脅威を強化する方針であります。過去の数年は、戦争を防止し、平和に反対する勢力を孤立させ、これを粉砕する可能性についての共産党の結論がどんなに正しかったかということを明らかにしています。

最近の一時期は、資本主義の全般的危機がいっそう深まり、資本主義社会内部だけでなく、国際舞台でも、資本主義制度を瓦解・分裂させる社会的政治的矛盾が大きくなってきたことを、ますますはっきりと証明しています。資本主義諸国の労働者階級が自分の直接的な利益や終極的な利益のためにたたかう組織形態と方法には、ひじょうに多くの新しいものがあらわれました。帝国主義植民地体制の瓦解は、いまや完成の段階にあります。近年らい、社会主義にたいする解放された人民のおさえることのできないあこがれと非資本主義的発展の道をあゆもうとするかれらの意図は、とくにはっきりしてきました。

革命運動のまえには、また平和と社会主義の大業をめざす戦士のまえには、ひじょうに大きな新しい可能性が出現しており、わたしたち共産主義者は、これらの可能性をよりよく利用することによって、それを労働者階級と各国人民に役だたせるためには、どうすればよいかを考慮しなければなりません。

会議は、新しい経済的、社会的、政治的現象およびその過程を集団的に分析し、それぞれの評価と立場を調整させ、これらの評価と立場にもとづいて共同の政治路線を豊かにし、それを具体化させる格好な場所である、とわたしたちはかたく信じています。満足の意をもって指摘できるのは、一九五七年と一九六〇年の文書のなかで確定された世界共産主義運動の総路線は正しいものであり、兄弟党に新しい成果をもたらしたということを、生活が十分に立証していることであります。それと同時に、一堂に会して、歩んできた段階を総括し、経験を交流し、世界共産主義のまえに横たわっているすべての問題をひととおり検討するとともに、すでにおこっている国際情勢の変動にもとづいて、宣言と声明の思想を補充し、発展させ、新しい問題を創造的に分析し、解決する、こうした必要性が充分熟しています。

これらの任務のすべての角度からみれば、新たな国際会議開催の時期を長期間おくらせようという中国共産党中央委員会の提案は、とりわけ受け入れることのできないものであります。いっさいの状況が物語っているとおり、会議は依然として必要なものであり、会議の開催を長期にわたって引きのばすことはできません。

ソ連共産党中央委員会の意見によれば、もっとも主要なことは、新たな国際会談の具体的期日がどうであろうと、個々のマルクス・レーニン主義政党が今日、会議の趣旨とする事業――全世

界共産主義者の隊列の団結を強固にし、いっそう努力して共同の目標に到達するという事業にそれぞれ貢献しなければならないということです。現在重要なのは、すべての兄弟党がこれらの目標のためにいっそう積極的に奮闘しなければならないということです。どの兄弟党も一刻の猶予も許されないいくつかの任務に直面しています。それは、共産主義運動のなかですでに形成された局面を深く掘りさげて検討し、建設的な態度で討議に参加し、困難をのりきる道を探求し、自分のすべての日常行動をわたしたちの隊列の国際的団結を強めるという利益から出発させることです。これこそ、自分がプロレタリア国際主義の原則と要求に忠実であり、マルクス・レーニン主義の全精神に忠実であることを立証する着実で実行可能な方式であります。同時に、これは共産党の国際集会をひらき、それを順調にすすめるもっともよい方法でもあります。わたしたちは会議開催の期日の問題を新しい論争のタネに変え、共産主義運動のまえに横たわっている主要な任務を解決する途上での障害物に変えることに、だんこ反対します。しかし、わたしたちは中国共産党中央委員会が提案しているように、会議を「四、五年、あるいはもっと長い期間」おくらせることにもだんこ反対します。

これこそ、ソ連共産党中央委員会と中国共産党中央委員会が最近数回にわたって交換した書簡のなかで提起された基本的問題――新たな国際会議の目的と見通しの問題にたいするわたしたち

の立場であります。

中国共産党中央委員会の五月七日付の書簡は、国際会議の開催とつながりのある、あるいはそれと直接関係のないその他一連の問題にもふれています。たとえば、会議招集の手続きにかんする問題がこの部類に属しています。

中国共産党中央委員会は、現在の状況のもとでは、コミンテルンのような常設機構がないため、なにびとも国際会議を招集する権限がない、と断言しています。もし共産主義運動がそのよりどころとしてうちたてられている民主的原則から出発するなら、どの党も、あるいは、どのいくつかの党も、みな会議の開催を提唱することができる、と認めないわけにはいきません。こうした状況のもとでは、共産主義運動のその他の各隊列の義務は、もしこの提唱がわたしたちの共同事業に利益をもたらすなら、これを綿密に検討し、支持することであります。ソ連共産党についていえば、みなさんも知っているとおり、国際会議招集の問題では、兄弟党がソ連共産党に特殊な責任をあたえています。一九五七年の会議で採択された決議には「各兄弟党と話し合うという条件のもとで、ソ連共産党に責任をもって共産党・労働者党会議を招集することを委託する」とのべられています。この決議は中国共産党代表団の参加のもとで、一致して採択されたものです。そればかりか、毛沢東同志は一九五七年十一月十四日午後の会議で「ソ連共産党を会議招

集者と認める必要があります」と声明しました。

わたしたちが真相を復活させるのに有利なこれらの事実を列挙したのは、会議の招集を提唱する問題を論争の新しい課題に変えさせないためであり、すでに熟している兄弟党代表による国際会談を引きのばす口実に変えさせないためであります。

中国共産党中央委員会は会議に通ずる道のうえにつぎつぎと、ますます多くの障害物を置くために、「充分な準備活動」をやらなければならないと書いています。わが党は過去においても現在においても、会議が成果をあげるためには、周到な準備をととのえなければならないと一貫して考えてきました。ほかでもなくこの目的のためにこそ、わたしたちは公然たる論戦を停止し、国際共産主義運動の隊列のなかで分派活動をおこなうやり方を放棄するよう、たえず提案してきたのです。

あらゆる状況から見てとれるように、中国共産党中央委員会のいう「準備活動」とは、これとまったく相反するある種のもの、つまり分派活動と分裂活動を強化し、できるだけ論争を先鋭化させることを指しているのです。率直にいうなら、中国の指導部が会議の招集をおくらせる真の原因は、実質的にはここにあるのです。闘争がますます先鋭化している状況のもとで、各種の状況から見られるとおり、中国の指導部は北京のいいなりになる党とグループの集団をかき集める

つもりでいるのです。現在、あなたがたは、各国でつのった共謀者を会議に招請しようと、公然と力をかたむけていますが、この事実もこの点を物語っています。

現在、中国共産党中央委員会が会議に出席するメンバーの問題さえも意見の相違の課題に変えている以上、わたしたちはこの問題にたいして自分の態度を表明する必要があると考えます。わたしたちは、一九五七年と一九六〇年の会議に出席し、会議の文書に署名した党は、みな会議に出席できると考えます。このようにするのがより正しいというわけは、共産主義運動のなかでの意見の相違が、宣言と声明にたいする解釈に関連しているからです。いうまでもなく、これらの文書を起草し、それに署名した党の集会だけが、正しい解釈をくだすことができるのです。また会議そのものだけが、新しい出席者の招請を決定する権限をもっているのです。前回の国際会談いらい、いくつかの国に（とくにアフリカに）いくつかの党が出現しました。これらの党は宣言と声明のなかに反映されている共産主義運動の総路線を承認し、実践のなかでこの総路線を実行しています。これらの党は自国労働運動の公認された代表であります。当然、このような党は新たな国際会談に出席するよう招請されるのを期待する権利があります。

中国共産党中央委員会が新しいメンバーを会議に招請する問題を提起した際、中国共産党中央委員会が関心をもっているのは、けっしてこれらの党ではなく、自ら手がけてつくりあげ、仰々

しく「党」をとなえている反党グループを指しています。しかし、第一に、これらのグループは自国の労働運動を代表しておらず、国外から人為的に育てあげられたものです。オーストラリア、ブラジル、ベルギー、セイロン、その他一部の国の反党グループは、ちょうど中国共産党中央委員会が国際共産主義運動の隊列のなかで分派活動を展開していた時に出現したものであり、この事実を偶然の一致とは考えられません。第二に、これらのグループは理論上においても実践上においても、宣言と声明のなかに規定されている世界共産主義運動の総路線をまもっていません。これとは反対に、これらのグループがさかんに宣伝している観点は、これらのグループがこの総路線の反対者であることをすっかり暴露しています。第三に、これらのグループはマルクス・レーニン主義政党から除名され、合法的に選出されたこれらの党の中央委員会や長期の試練を経た、威信のある指導者とたたかい、反対派の立場に立っている反党分子で構成されているものです。これらのグループの政治状態とメンバーを説明するにあたって、有意義なことは、トロツキスト、アナーキスト、各種の裏切り者と変節者がこれらのグループにくわわっていることであります。中国の指導部の路線を支持するこのような一部のものが中国の指導部にけっして光彩をそえないことを、きっぱりといっておかなければなりません。あなたがたがどのように努力して、これらのニセものを「真の革命者」にえがきあげようとしても、かれらはやはり共産主義

運動のそとに身をおくものであり、いかなる勢力もこれを共産主義運動の隊列のなかにひきいれることができません。

中国共産党中央委員会の五月七日付の書簡のなかにあらわれている、オーストラリア、ブラジル、インドの長期の試練を経たマルクス・レーニン主義政党を侮辱する企図にたいして、ソ連共産党中央委員会はこれを不問に付するわけにはいきません。わたしたちはつぎのような不面目な手口にあくまで反対します。それは、一つの党つまり中国共産党の指導者が共産主義運動のなかで特殊な地位を占めることを要求し、あらゆる党とその指導者にたいして判決をくだす権限をもち、それぞれの国の労働者階級だけが判断をくだせる問題を思いのままに解決する権限をもつことを要求することです。

もしあなたがたが今後も、こうした会議の「準備活動」を続行するなら、いいかえると、極力分派活動を続行するなら、あなたがたはこれらの事実をもって、既存の見方、つまり中国共産党指導部は現に事態を直接分裂に導いているという見方をもう一度立証するだけであります。

中国共産党中央委員会が共産主義運動のなかの公然たる論戦を先鋭化させようとする企図は、早くから火を見るよりも明らかになっています。中国共産党中央委員会がおこした宣伝活動は、すでに思想上の論戦のあらゆるワクを越えており、各国のマルクス・レーニン主義政党に反対す

る公然たる政治闘争となっています。この宣伝活動は事態の真相を明らかにし、わたしたちの運動の理論と政策のいろいろなさしせまった問題を探究することとなんの共通点もありません。あなたがたの言論の全内容、方法、論調は、あなたがたが論争問題のワクを故意に一段とひろげ、各国のマルクス・レーニン主義政党の真の立場をねじまげ、これらの党の指導部を中傷し、大衆をそそのかして、これらの党の指導部に反対させようとしていることをあらわしています。これが論戦ではなくて、意見の相違を先鋭化し、憎しみをかきたてるものであることは、誰ひとり知らないものはありません。この宣伝活動は社会主義諸国人民の友宜をゆるがせ、革命的な労働運動と民族解放運動の隊列のなかに混乱と不信をまきちらし、世界の社会主義の名誉をそこなっています。そうすることによって、中国共産党の首領たちは帝国主義の侵略ブロックの威勢を助長させていますが、周知のように、このブロックは中国の宣伝資料をまきちらすのに熱をあげて手助けしています。

わたしたちは会議の準備について、別な理解をしています。ソ連共産党中央委員会はゆらい一九六〇年の声明が規定している同志的に意見を交換するという方法を運用して、準備の過程で、共産主義運動の重要問題を創意的に討議するよう主張してきました。マルクス・レーニン主義のあれこれのさしせまった問題について、わたしたちの運動の戦略と戦術の問題について討論をお

こなうのは正常なことであり、有益なことである、とわたしたちは考えています。こうした討論はマルクス主義思想の発展に役だち、各国共産党の活動を生活の要求といっそうぴったりと結びつけることに役だち、共同の立場を定め、それを会見と会議への準備とすることに役だちます。だが、中国共産党中央委員会のおこした、共産主義運動を敵視する宣伝活動は、これらの目的に少しも奉仕することができません。

あなたがたは、ソ連の新聞・雑誌に発表されたかのようにいっている「二〇〇をこえる反中国論文と資料」および「なん十もの兄弟党の大量の決議、声明、論文」に回答するつもりだと、おどしています。いいかえると、あなたがたは際限なく、公然たる論戦をおこなおうとしています。見うけるところ、これこそあなたがたのねらいのひとつなのです。あなたがたは論戦をはじめることによって、兄弟党に余儀なく、あなたがたの正しくない観点を反撃させました。今日、あなたがたは「回答」という看板をかかげて、マルクス・レーニン主義政党に反対する政治闘争をますますひろげようとしています。

中国共産党中央委員会が、その五月七日付の書簡のなかでおこなった、両党が各自の新聞・雑誌に相手方の資料を発表するとりきめを結ぼうという提案は、あなたがたのたくらみをこのうえもなくはっきりと、さらけ出しています。この提案は論戦を一段と激化させる点にねらいがおか

れているのです。

これにたいして、討論が理論と政策の問題についての原則的な討議というワクをこえない望みがまだあった時、わたしたちは自分の新聞に一部の中国資料を転載したことがあると、指摘したいのです。しかし、問題は原則的な討論ではなく敵意をもった宣伝である、と事態がすでにはっきりした時、わたしたちはそれとは別の態度をもってこの問題に対処しなければなりません。どの共産党も、時のいかんを問わず、社会主義の大業に逆行する中傷的な資料を転載、散布、宣伝する責任を負っていません。この種の資料がだれのところから出されたとしても、それは単に帝国主義の反動的集団の世界社会主義に反対するたたかいを助けるだけであります。

わが党とわが国が「アメリカ帝国主義と結託し」「革命を裏切り」、資本主義制度を「復活」させているといいくるめた論文を転載するのは、中国共産党、中国人民にたいするわが国人民の友宜と兄弟的なよしみをぶちこわすほかに、なんの結果ももたらしません。そして、中国共産党と中国人民はかれらの指導者の当面の行動にたいして当然責任を負うことができないのであります。ソ連の新聞・雑誌がこのような論文をつぎつぎと掲載するなら、それらの論文のひとつひとつに回答せざるをえません。そうなれば、中国指導部との論戦がわが国の思想生活全体の基本的内容となるでしょう。そしてこのことは、主要な任務——共産主義の建設、反帝闘争、革命的労

働運動と民族解放運動を援助するという任務への党と人民の注意を、他にそらすことを意味しています。わが党がこのようにやらないことは、明白です。

あなたがたのすべての意図は、論戦を一段と激化させ、分派活動をいっそう強化し、共産主義運動の直面している問題について集団的討議をおこなう方法を拒否するところにあるのだということをもう一度確認しておかなければなりません。中国共産党中央委員会は全世界の共産主義者に不安をおぼえさせているあらゆる問題で、わたしたちの運動の共同の利益にそむき、わたしたちの運動の各隊列の団結を強める利益にそむく立場をとったのであります。

この面から見ると、中国共産党中央委員会の「一貫した立場は団結を堅持し、分裂に反対することであり」「意見の相違をとりのぞくためにたゆまず努力している」というのは、まったく事実に反するものであります。当面の条件のもとで、団結のためにたたかうこと、これはいついかなる時にもまして実際的で、建設的な行動が要求されています。ところが、あなたがたの行動のねらいは、逆に全力をかたむけ、あらゆる手段をつかって意見の相違をとりのぞくのを妨害し、情勢を先鋭化させることにあるのです。中国共産党中央委員会の五月七日付の書簡の全体に貫かれている消極的な態度は、兄弟党の提案に応じることを、根底から望んでいません。これにはつぎのような一つの解釈しかできません。それは、中国の指導者が圧倒的多数の共産党の意見と利

益を考慮しようとせず、それらの党に反対する激しい闘争をおこない、意識的に共産主義運動を分裂させようとしているということであります。

共産主義運動のすべての成員にとって明らかなとおり、中国共産党中央委員会が国際会議をずっと長くひきのばしているのは、そのあいだに自分の支持者をふやし、かれらを自分の政策におとなしくしたがう道具に変えることを期待し、そうすることによって将来ひらかれる会議で自分に有利な条件をつくりだそうとねらっているのであります。このようなくわだてが徹底的に破たんすることを予言するのに、別に予言者になる必要はありません。時がたてばたつほど、中国共産党指導者が国際共産主義運動におしつけている政治的、思想的綱領と戦術路線は成り立たないものであることを、生活がますますはっきりと立証するでしょう。わたしたちはこのことをみじんも疑っていません。中国の指導部が追求している不面目な目的は日ましに暴露され、一時かれらにまどわされている人びともやがては目がさめるでしょう。もちろん、中国共産党中央委員会の分裂活動は、共産主義運動に損害をもたらすであろうし、またすでにもたらしています。とりわけ資本主義諸国の複雑な条件のもとで、労働者階級の大業のために、帝国主義反動派に反対するためにたたかっている共産主義運動の隊列に損害をもたらしました。しかし、労働者階級の闘争が一歩一歩前進するごとに、また世界社会主義体制の発展があらたな成果をつぎつぎとかちと

るごとに中国の指導者の誤った、現実ばなれのした方針に打撃がくわえられ、共産主義運動のレーニン主義的方針の正しさと生命力が実証されるでしょう。

中国共産党中央委員会は、その書簡のなかで、ソ連共産党とその他のマルクス・レーニン主義政党とのあいだの政治上、思想上のくいちがいの問題について言及しています。わが党は、これらの問題にたいする自分の立場をすでに再三にわたって明らかにしてきました。したがって、わたしたちは、ふたたびこの書簡のなかで、これらの問題をとやかくいう必要がないと考えています。まして、あなたがたの攻撃にはなんの目新しいものも見あたらないのですから。あなたがたは早くから、粗野な悪口と他人にレッテルをはることで日を送っています。しかも、これをもって、中国共産党中央委員会が特殊な意見をいだいているいくつかの問題にたいする誠意ある討議にかえています。ソ連共産党中央委員会はあなたがたの無責任な断定、たとえばソ連共産党が「ひたすらアメリカ帝国主義と連合しようとしている」とか、「民族解放運動に反対し、プロレタリア革命に反対している」とか、「社会主義陣営と国際共産主義運動を公然と分裂させる大陰謀を画策している」とかの断定をだんこ拒否し、それを明白な中傷だと見なしています。こうしたいい方は、その作者の威信をあとかたもなくなくすだけであり、反帝闘争の重任をおっている最初に勝利した社会主義国にこのような悪らつな攻撃をくわえているものの威信をあとかたもな

くなくすだけです。こうしたデタラメきわまることばを、誰に信じこませようと期待しているのでしょうか。あなたがたはほんとうに、こうした中傷を信じる馬鹿正直な人間をさがしだすことをあてにしているとでもいうのでしょうか。あなたがたのこれらの断定の真の意義は、あなたがたが中国の人民大衆をまどわせ、かれらをそそのかしてソ連人民——中国労働者と農民の友人と兄弟に反対させようとするところにあるのです。これらすべては、どのようにすれば社会主義諸国の人民をちりぢりにすることができるか、どのようにすればかれらのあいだに憎しみをまきちらして、かれらをたがいに衝突させることができるかと夢にまでおもっている帝国主義にだけ有利なのです。

あなたがたは、こうした手口をつかい、なんとかして、あなたがたと国際共産主義運動の現在の政治路線とのあいだに、たしかに存在している意見の相違の真の本質をあいまいにしようとやっきになっています。全世界のマルクス・レーニン主義者が早くから明らかに知っているとおり、中国の指導者は、戦争と平和、社会制度の異なる国家間の平和共存、社会主義革命の実現の方式、民族解放運動の役割と発展の道、個人迷信の思想と実践にたいする闘争、社会主義と共産主義の建設の方法といった根本的なきわめて重大な問題で、共産主義運動とたもとをわかっています。

あなたがたは、あなたがたがソ連共産党第二十回大会の思想にたいする和解できない反対者であると、いたるところで大いに宣伝しています。同志のみなさん、あなたがたがこれを光栄だと心得ているのは無駄なことです。つぎのことは、知っておかなければなりません。これはこんにち、あなた方がずっと以前に生活と世界解放運動全体の実践によってなげすてられた、立ちおくれた立場にたっているものだということをもっともよくさらけだしているにすぎないのです。国際共産主義運動全体は、ソ連共産党第二十回大会こそわたしたちの運動の発展の中で新しい段階を切りひらいたものである、と認めています。この点は宣言と声明にも記入されています。ソ連共産党第二十回大会はレーニン主義の創造的精神と世界共産主義運動全体の新しい路線の象徴となり、スターリンにたいする個人迷信の思想と実践からレーニン主義の原則と准則へ転換する象徴となったのです。

ほかでもなくこの転換こそが、帝国主義に反対し、平和と社会主義をめざす闘争のなかでの新しい成果に、世界共産主義運動の威信と影響の増大に、世界共産主義運動の反動勢力と戦争勢力にたいする新たな攻撃の展開に、前提をうちたてたのです。ソ連共産党第二十回大会と第二十二回大会の決議にたいする、宣言と声明の原則と方針にたいする猛烈な攻撃こそ、共産主義運動のなかの保守勢力の現代におけるマルクス・レーニン主義にたいする反動であります。

見うけるところ、中国共産党中央委員会の五月七日付の書簡そのものに、個人迷信の思想がどんなにかしみこんでいるかを、あなたがたは気づきさえしていないようです。兄弟党の意志にたいするあなたがたの示威的な軽蔑的な態度、すでに発生している問題を集団的に討議することを回避しようとするあなたがたのおおっぴらな意図、さまざまの政治的中傷や突拍子もない非難の手口をつかって論戦をすすめるあなたがたの方法、共同闘争の同志にたいしてとっている許しがたい凶悪な態度、これらのすべてには個人迷信の実践の打ち消しがたい烙印がおされています。

中国共産党中央委員会は、あらゆる共産主義者にとって神聖な、革命と反帝の旗じるしをつかって、自分が共産主義運動路線に背をむけていることをおおいかくそうとしています。しかし、中国共産党指導部の実際行動、つまり現代の革命勢力をきりはなすことを眼目としているすべての活動は、こうした「革命性」の真の価値をあらわしています。たとえば、中国共産党の指導者がどのような意味をいわゆる「中間地帯」という悪名高い理論につめこんだかは、さいきんとくに目だってきています。中国とともに中間地帯のなかへならべ立てられたものには、日本、ドイツ連邦共和国、フランス、イギリスなどの帝国主義者があります。帝国主義者は、共産主義運動と社会主義陣営のなかに分裂があらわれたことをどんなによろこんでいるでしょう。この点は、かれらがある種のルートを見つけだして、分裂をひきおこしたそれらの人びとと接近しよ

うとくわだてていることから見てとれます。中国共産党の指導者は、現在、つまり中国の宣伝が「革命」や「反帝闘争」をもっとも盛んにわめきたてている時、これらの大国の支配グループは、とくに北京とより密接な関係をうちたてようと望んでいることに、気づいたことがあるでしょうか。ちょうどアメリカ政府筋の人たちの多くの声明が実証しているとおり、アメリカ帝国主義者でさえ、中国の宣伝の口調は好戦的ではあるが、行動はかえって「温和」であり、したがってアメリカは中国との関係でおこるかもしれない変化のために「大門をひらく」べきであるということを確認しています。

こんにち、全世界のマルクス・レーニン主義者にとってますますはっきりしてきたことは、中国共産党の指導者の口にする「左」翼的な言辞が、国際舞台と共産主義運動の実際行動のなかでますます顕著になってきたかれらの大国主義的意図と覇権主義にほかならないということです。同志のみなさん、あなたがたの歩んでいる道はきわめて危険な道であり、中国人民の運命と中国人民革命の成果をもてあそぶものである――わたしたちは前もってそう警告しておきたいと思います。

あなたがたは、その反レーニン主義的な観点と立場にたいする批判を「反中国カンパニア」であるといいくるめようとしています。あなたがたもはっきり知っているように、わが党のすべて

の文書には、中国人民にたいするソ連共産主義者のもっとも友好的な感情がとくに強調されています。わたしたちは、社会主義建設をすすめつつある中国人民に従来も全力をあげて援助してきたし、今後も全力をあげて援助するつもりです。ソ連共産党中央委員会は自国の人民のあいだで、中国、偉大な中国人民、その他のすべての国の人民にたいして不信感や敵対的な感情をあおりたてたことは絶対にありません。

わたしたちはソ連人民と中国人民の友宜を大事にし、ソ連共産党と中国共産党の団結を大事にし、世界の解放運動全体の団結の利益を大事にするからこそ、中国の指導部が中ソ関係の改善をのぞまないということを日一日と公然と表明しているにもかかわらず、わたしたちは中国共産党との関係を正常化するためにうまずたゆまず努力しているのであります。わたしたちが長期にわたって忍耐し、自制しているのは、わたしたちがレーニンの国際主義の原則に忠実であり、将来をみきわめ、社会主義共同体と共産主義運動におけるこれらの原則の最後の勝利を信じているからにほかなりません。

わたしたちが、共産党・労働者党国際会議の開催を必要と考えるのは、それがマルクス・レーニン主義政党の団結を保証する試練ずみの確実な方法であると考えるからだということ――わたしたちはこの立場をかさねて表明しておきます。会議は開かねばならず、長期にわたって引きの

ばしてはならないこと、会議開催の具体的な期日と会議の議事日程、メンバーについては兄弟党とさらに話し合う過程でとりきめること――わたしたちはこうしたことを短期間に原則上とりきめることを提案します。

ソ連共産党中央委員会は、いまの段階では、おもな力を準備会議の開催に集中すべきであると考えています。わたしたちは、二六ヵ国の共産党の代表からなる準備会議を招集するというわたしたちの提案をかさねて表明しておきます。これらの共産党は、一九六〇年、各国共産党の国際会議で起草委員会のメンバーとして承認され、世界中のあらゆる主要な地域の共産主義者の利益を代表しています。この準備会議を開催する具体的な期日については、わたしたちはもっとも短い期間に兄弟党と相談して取りきめなければならないと考えます。

ソ連共産党中央委員会はいままで通り、話しあいがまとまればどの期日にでもソ中両国共産党代表の両党会談を開きたいと思っています。この問題は、ソ連共産党と中国共産党がいつでも話しあって解決できるものです。

共産主義運動の諸問題を集団で審議するという方法――これは各国共産党がひろく認めている当面ただひとつの正しい方法です。したがって、国際主義を放棄しない以上、いかなる党も会議の開催をはばんだり、会議開催についての自己の条件を独断的に他人におしつけたりすることは

許されません。すべての党は平等であって、宣言と声明からひきだされる民主的原則にもとづき、わたしたちの運動全体にかかわる各種の諸問題を共同で解決するものであります。

最後に、ソ連共産党中央委員会はつぎの点を強調しておかねばならないと考えます。ソ連共産党はこんども第二十回大会と第二十二回大会で制定されたレーニン主義的方針にそってだんこ前進し、一九五七年の宣言と一九六〇年の声明に具現された世界共産主義運動の総路線をだんこ実行していきます。わが党と全ソ連人民は、共産主義社会をきずきあげるという世界史的な意義をもつ任務に直面しています。わたしたちは、すべての平和を愛する勢力とともに、世界熱核戦争の防止にたいし、平和、民主主義、民族独立、社会主義の事業の勝利にたいして責任を負っています。わたしたちは、現代のこの偉大な任務の解決をめざす闘争のなかで決して自分の力を惜しまないでしょう。

わたしたちはまたこうした立場から出発して、世界共産主義運動の困難を克服し、その隊列の団結を強化する問題に対処しているのです。世界共産主義の利益は、わたしたちにとって、何よりも高いものです。わたしたちは中国共産党やその他のどの党との関係でも、こうした利益をまもっています。

ソ連共産党中央委員会がこの書簡でおこなった提案にひじょうに真

剣な態度をとり、自分のとっている立場がもたらすかもしれないすべての結果をもう一度おしはかり、分裂を目的とするのではなくて、すべてのマルクス・レーニン主義政党との団結を目的とした措置を自分の側からとるよう希望するものであります。

兄弟のあいさつをおくります。

一九六四年六月十五日

ソ連共産党中央委員会

ソ連共産党中央委員会の書簡（1964年6月15日付）にたいする
中国共産党中央委員会の返書

1964年　初版発行　　定価 30 円

出版者　外文出版社
（北京阜成門外百万荘）

発行者　中国国際書店
（北　京 P.O.Box 399）

編号：（日）3050—1025　　3—J—599P
00027